



xR最新動向セミナー

企業間連携によるVR・ARの活用について

株式会社ダブルエムエンタテインメント

三田 健太

■ 三田 健太 略歴



1983年 7月8日 札幌市生まれ

札幌西高校 – 北星学園大学経済法学科

法科大学院を目指すも妥協して就職
札幌市内IT企業に入社

2009年に起業
ダブルエムエンタテインメント設立
当時は映像制作業
その後WEB制作とデザイン

2014年にVR事業発足

2018夏 ドローン×360撮影 富良野にて

■現在のおもな事業内容

映像制作事業

札幌市広報部 平成31年度広報動画制作業務 ほか)

V R企画制作事業

自治体プロモーション、観光コンテンツ (全道各所)

エンタメアトラクション (さっぽろ雪まつりほか)

BtoB 教育、販売促進コンテンツ

(釧路西別保高規格道路記録事業ほか)

セミナー講師

自治体・企業向け情報提供セミナー

V R体験・360度カメラワークショップ

CPDS講座 (実績2年8か所)

企業間連携によるVR・ARの活用について



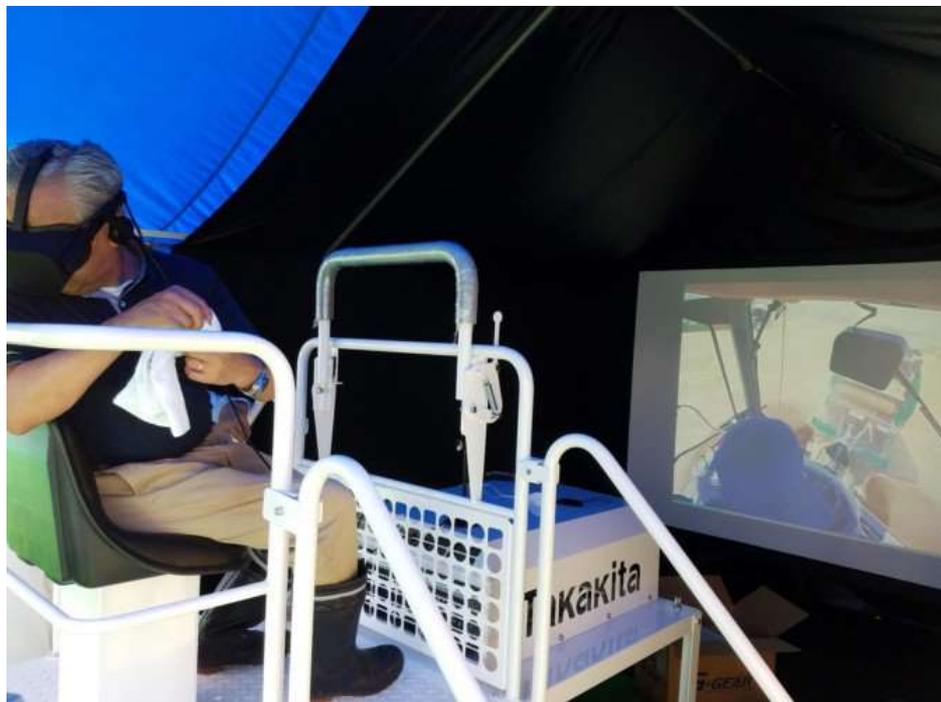
弊社 x R事例

■国内初の観光体験VRアプリ(北海道美唄市)



2015年7月リリース タイ観光客増前年度比1100%
2016年11月 5か国語対応でアップデート

■動きはVR、見るのはリアル



2018年7月、帯広にて販売展示
800万のベレーが売れた

農機の動作をVR上で確認
実機と同じ位置関係にて設
置体験し、イメージを掴む



■この仕事しててよかったと思えた瞬間の写真



「VRリ्यूージュ」 2019さっぽろ雪まつり初出
新聞掲載採用写真



360 撮影を活用した現場記録





360 撮影を活用した現場記録



The background features a light blue world map with a dotted grid pattern. In the foreground, two hands are shown shaking. The hands are rendered in a stylized, flat-shaded manner with shades of orange and brown. The sleeves of the hands are dark grey with white cuffs. The overall composition is centered and conveys a sense of global partnership and collaboration.

x Rは魔法ではない

品質の向上には
企業間連携が必要

■5年やってきて感じるもの

ひと 2015

けんた 三田 健太さん



観光地を「仮想現実」のアプリで紹介

まるでその場にいるかのような映像を見られるバーチャルリアリティー（VR、仮想現実）の技術を使って、観光地を紹介するアプリケーションを開発した。観光地を映した映像をスマートフォンで上下左右に動かすと、視点が一緒に動き、360度の景色を楽しめるシステム。美唄市が今月から、道内で初めてこのアプリを活用し、マガンが飛来する宮島沼など5カ所を紹介している。

映像やホームページの作成、デザインを行うIT企業「ダブルエムエンタテインメント」(札

幌市白石区)社長。北星学園大卒業後、札幌市内の企業に勤めたが、「自分がより面白いと思える仕事がいい」と2009年に会社を設立した。

実は、ネットの世界では有名な。学生時代に、動画投稿サイト「ニコニコ動画」に「ヲタケン」のニックネームで自身を撮影した動画を投稿。裸で踊ったり、腐った卵を食べたりする姿を披露し、海外からもファンレターが届く人気ぶりだった。

裸をさらすのには飽きたが、「映像で面白いものを届けたい」との思いは変わらなかった。昨年、VRの技術を知り、観光地の紹介を思いついた。知人がいた縁などで美唄市での話がまとまり、撮影した動画を基に編集した。「どんな場所でも紹介できるVRには多くの可能性がある。水中や宇宙はもちろん、動物の視点を体感することもできる。人を楽しませる物を作り続けたい」。31歳。(鹿内朗代)

■ 小規模企業白書 (中小企業庁発刊)

2018年版 小規模企業白書

すべて閉じる

すべて開く

2018年版小規模企業白書の概要

本書で取り上げた事例一覧

本文を読む前に (凡例)

◆ 第1部 平成29年度 (2017年度) の小規模事業者の動向

◆ 第2部 小規模事業者の労働生産性の向上に向けた取組

◆ 第1章 小規模事業者の人手不足と業務の見直し

◆ 第2章 小規模事業者のIT活用による労働生産性の向上

◆ 第3章 小規模事業者の設備投資による労働生産性の向上

◆ 第4章 小規模事業者の企業間連携及び事業承継による労働生産性の向上

◆ 第1節 小規模事業者の企業間連携の現状

◆ 第2節 企業間連携による労働生産性の向上

1 企業間連携の実施有無別の経常利益額の傾向

◆ 第3節 事業承継を契機とした労働生産性の向上

事例2-4-2：株式会社ダブルエムエンタテインメント

「企業間連携で地域の観光振興に取り組む企業」

北海道札幌市の株式会社ダブルエムエンタテインメント (従業員なし、資本金1万円) は、自治体やイベント向けにVR (ヴァーチャルリアリティ) コンテンツの制作・開発を行う小規模事業者である。三田健太社長は、2000年代に趣味で行っていた動画投稿等を通じて知名度を高め、2009年に映像制作やWEBデザイン等を手掛ける同社を設立した。

他社との差別化に悩む中、2014年末に流行の兆しを見せたVRに商機を感じ、VR機器とVR撮影用の全地球型カメラを導入した。北海道美唄市のイベントの撮影中に同市の観光課職員と市長の目に留まり、VRを使った市の観光PRアプリ制作業務を受注した。2015年夏には同市の観光VRが完成し、これを使ってタイの観光博でPRした結果、美唄市へのタイからの来訪客は翌年11倍に増加した。三田社長のプロデュース力と動画作成技術が評価され、道内の他の自治体との取引も増えている。

営業、動画撮影、加工・編集に至る一連の業務は、基本的には三田社長が一人で対応してきたが、近年は人脈を活かして、YouTuberへ編集業務の外注や、VRアプリの制作技術等を持つ企業との連携を進めている。IT系企業の勉強会に参加した際に、三田社長は、富良野でレストランや土産店の運営を行う株式会社JEROPの吉田社長と意気投合し、観光振興について共同プロジェクトを企画した。冬に富良野へ訪れた観光客に、ラベンダー畑のVR動画を体験してもらい、夏の再訪を狙う取組である。同社が、超高精細8K映像で魅力あるVR動画を制作し、JEROPの土産店内に設置した体験ブースで来訪客に提供した。JEROPが販売するラベンダーのアロマオイルを使って、視覚・聴覚だけでなく嗅覚にも働きかけるなど新たな手法も試みている。このような企業間連携により観光客が増えれば、同じ地域の企業の売上向上等、波及効果が期待される。

「北海道が大好きだという気持ちと、社名に冠したエンタテインメント性を忘れずに、観光資源を掘り起こしてVRで発信したい。地元自治体や民間企業と連携してVRを活用し観光振興する方策を考えていきたい。」と三田社長は語る。



■地方現場の声 (CPDS講座アンケート)

①情報の不足

②予算の確保





建設業においては
建設事業者と
XR専門家との間で
密な連携が必要である



HMC

Hokkaido Mobile Content and business Council

北海道モバイルコンテンツビジネス協議会

活動イメージ

情報共有

会員間の情報交換・共有、
国内外への情報発信など



勉強会
セミナー活動

最新のモバイル関連
情報の研究会、勉強会、
セミナー等の開催など

人材育成

モバイル関連業界の
学生向け説明会、大学や専門学校との
連携による優秀な人材の
育成、インターンの実施など

ご清聴ありがとうございました！

株式会社ダブルエムエンタテインメント

設立 2009年7月2日

札幌市白石区南郷通10丁目南4-21

代表取締役 三田健太

WEB : <http://wm-e.jp/>

TEL : 011-826-6464

